

令和4年度 河川水質調査結果

1 生活環境項目

調査項目	A			B			C			D			E			F			G	H
	水素イオン濃度 (pH)			溶存酸素量 (DO)			生物化学的酸素要求量 (BOD)			浮遊物質 (SS)			大腸菌数			全亜鉛			ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)
基準	6.5以上8.5以下			7.5以上			2以下			25以下			300以下			0.03以下			0.002以下	0.05以下
測定回数	4回			4回			4回			4回			4回			4回			1回	1回
	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	—	—
1 勝尾寺川	8.0	9.0	8.4	8.7	15	12	0.6	0.8	0.7	<1	4	2	26	67	46	<0.001	0.001	0.001	<0.00006	<0.0006
2 箕川	7.6	8.2	7.9	8.8	14	11	0.6	1.0	0.8	<1	1	1	55	320	210	0.003	0.006	0.004	<0.00006	0.0007
3 鍋田川	9.1	9.5	9.3	15	19	17	0.9	1.1	1.0	<1	8	4	23	890	400	<0.001	0.004	0.002	<0.00006	0.0008
4 オヶ原川	9.4	9.8	9.5	12	17	15	0.9	2.4	1.6	1	14	5	36	760	360	0.001	0.004	0.003	0.00007	0.0011
5 千里川	8.7	9.1	9.0	11	17	13	0.7	1.5	1.2	<1	12	6	130	980	440	0.002	0.004	0.003	<0.00006	<0.0006
6 箕面川	9.0	9.5	9.3	10	18	14	0.6	1.8	1.0	<1	5	2	12	2000	520	<0.001	0.002	0.001	<0.00006	0.0011
7 余野川(上流)	8.2	8.9	8.6	8.2	12	9.7	<0.5	1.1	0.7	1	3	2	3	200	75	<0.001	<0.001	<0.001	<0.00006	<0.0006
8 余野川(下流)	8.3	9.2	8.6	8.8	12	10	<0.5	1.3	0.8	1	2	2	26	160	62	<0.001	<0.001	<0.001	<0.00006	<0.0006
9 川合裏川	8.1	8.3	8.2	8.6	13	11	0.5	1.1	0.8	<1	3	2	7	170	60	<0.001	0.003	0.002	<0.00006	0.0012

・水素イオン濃度について、年間を通してアルカリ性を示す傾向がみられた。生物由来の現象(炭酸同化作用)が原因であるものと推測される。

- 2 健康項目(人の健康の保護に関する環境基準 28項目)について調査した結果、すべて基準値内でした。(年1回)
健康項目のうち、農薬類起因の健康項目(3項目)及び要監視項目及び特殊項目(12項目)についても、すべて基準値内でした。
- 3 特殊項目(一律排水基準に基づく 9項目)について調査した結果、すべて基準値内でした。(年1回)
- 4 要監視項目(人の健康の保護に関する環境基準に関連する項目で、直ちに環境基準とせずに知見の集積に努める 19項目)について調査した結果すべて基準値内でした。(年1回)
この調査は、勝尾寺川、箕川、千里川、箕面川、余野川(下流)で実施しました。
- 5 底質調査(28項目)を余野川(下流)と川合裏川で実施しました。両河川ともに、一般的な土壌の範囲内でした。

6 ダイオキシン類の調査結果

区分	水質調査		底質調査
環境基準	1pg-TEQ/L		150pg-TEQ/g
調査場所	8月	2月	8月
1 勝尾寺川	0.065	0.068	0.53
2 箕川	0.081	0.067	0.42
3 千里川	0.140	0.072	0.40
4 箕面川	0.074	0.061	0.47
5 余野川(下流)	0.079	0.060	0.19

・ダイオキシン類については、すべて基準を十分に下回っていました。